

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂

阿部, 泰記
山口大学人文学部 : 助教授 : 中国古典文学

<https://doi.org/10.15017/9690>

出版情報 : 中国文学論集. 21, pp.23-36, 1992-12-31. 九州大学中国文学会
バージョン :
権利関係 :

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂

阿 部 泰 記

序

〈包公案〉の流れを汲む清代の鼓詞に、乾隆間の劉墉を主人公とした〈劉公案〉がある。筆者は、先に山口大學「文學會志」四十三卷（一九九二）に「語り繼がれた鼓詞〈劉公案全傳〉三部作」と題した一篇を草し、この鼓詞が異なる語り手たちによって語り繼がれた三部作であり、後に編集されて一作品となったことを論じた。その際、民國本の「足本劉公案全傳」でいえば、（1）左連城告状、（2）旋風告状黃愛玉上墳、（3）奉旨山東拿國泰の三部の説唱形式がそれぞれ異なることを例示したが、紙數の關係で、十分に説明できなかった。そこで本稿では、現存する下記の光緒石印本（イ）（ロ）と民國排印本（ハ）を比較しながら、さらにこの問題を論じてみたい。

- （イ）新刻繡像劉公案全傳四卷四冊 光緒三十一年（一九〇五）序石印 西諦書目（中國國家圖書館藏）
- （ロ）新刻繡像劉公案全傳四卷四冊 光緒三十四年（一九〇八）石印 北京師範大學圖書館中文古籍書目
- （ハ）足本劉公案全傳一冊 北京中華印刷局印行 雙紅堂文庫目錄（東京大學東洋文化研究所藏）

一

この鼓詞の形式は、始めに西江月詞「（6+6+7+6）字×2回を基本型とする」を詠じ、「お笑いを一席」の後、本題に入り、ひとくさり話して休止し、再び西江月詞を詠じて話を語り續けるといふことを繰り返して一話

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂（阿部）

を語り終える。この形式は〈劉公案全傳〉の(1)左連城告状、(2)旋風告状黄愛玉上墳と、(3)奉旨山東拿國泰の一部分に共通する形式である。だが子細に検討すると、それぞれ相違點を見出す。

まず第一部「左連城告状」では、西江月詞に始まる一段の中に、時折「卷」「回」の設定が見られる。また光緒本には、このみ「部」「卷」終止の表示がなされている。今その個所を示せば、次の通りである。

「先生於正月裡……西江月罷……此人巡撫坐山東」①

詩曰「洛陽訪才子……」(白)四句閑言叙過 緊接上回書……難道你老不知情 ②

詩曰「可歎山東衆黎民……」閑言勾開……下回書裡再表明「首部卷四終」③

「財帛本是眞寶……」西江月罷……且聽下回分解「二部卷四終」④

「都恒一生公平……」西江月罷……慌忙上馬去匆匆「三部卷二終」

加鞭催馬來的快……等時到了恩縣城「三部卷三終」⑤

小孩子到了南門外……師傅的言語記心中「三部卷四終」⑥

「從小志氣要告……」西江月罷……你想逃脫萬不能「四部卷一終」

周先生聞聽多驚訝……師傅的言語記心中「四部卷二終」⑦

小孩告別往外走……打發孩兒我進京⑧「四部卷三終」

馮氏聞聽這句話……袍子底襟扯窟窿「四部卷四終」

「母子二人定計⑨……」西江月罷……叫聲母親你是聽「五部卷一終」

(白)連城說母親……叫我哥哥回家中「五部卷二終」⑩

老者聞聽這句話……那相來了一窩蜂「五部卷三終」

頭前裡 跑開二十四個對子馬⑪……下一回裡訴分明「五部卷四終」

「世間買賣甚多……」西江月罷……先生送號左連城「六部卷一終」

因爲我爺爺死的苦 不是穿黃就是穿紅「六部卷二終」

不用人說我知道……要到山門外頭看分明「六部卷三終」

小拉嗎頭前帶着路……下卷書裡我再明〔六部卷四終〕

「醋是有味之物……」西江月罷……一頭放着大磁瓶〔七部卷一終〕

放着茶壺共茶碗……甚麼村庄何姓名〔七部卷二終〕

爲甚事情到我寺⑫……只要從頭至尾說個分明〔七部卷三終〕

小孩子 這般如此說一遍……明日金殿訴冤情 要知二叻嗎怎生去上本 下回書中再說清⑬〔七部卷四終〕

「腰疼皆因勞事……」西江月罷……却告給叻嗎僧〔八部卷一終〕

（唱）我乾爺領了我去奏一本……急忙住了車一乘〔八部卷二終〕

車夫將馬來拴定⑭……急忙再說二叻嗎僧〔八部卷三終〕

（白）干兒呀……下回書中表分明〔八部卷四終〕

「如今大烟盛行……」西江月罷……連把干爺叫一聲⑮〔九部卷一終〕

埋怨干爺哄我了……驚了大駕了不成⑯〔九部卷二終〕

因此我才將他綁……羅鍋你聽要發猛⑰〔九部卷三終〕

（白）劉老爺說……下一回裡說分明〔九部卷四終〕

「最怕六月天氣……」西江月罷……再說上回喇嘛僧〔十部卷一終〕⑱

（白）上回書中……⑲……連把乾兒罵幾聲〔十部卷二終〕⑳

（白）二喇嘛說 乾兒呀……再說大人劉聖公㉑〔十部卷三終〕

大老爺開虎口……下回書裡說分明〔十部卷四終〕

「別的時候好過……」西江月罷……狼心狗肺不久長〔十一部卷一終〕

攔住閑言書歸正……門生的禮過去了㉒〔十一部卷二終〕

劉中堂聽得和坤代了氣……花的錢全是門生我的〔十一部卷三終〕

「世上第一美事……」西江月罷……兄弟兩爭吵鬧希松〔十二部卷一終〕

兒也錯來弟也錯……下回書中再表明㉓〔十二部卷二終〕

家住山東東昌府……人馬圍得甚威風〔十二部卷三終〕
 和珅不禁長歎氣②⑤……旋風案上表個清②⑥〔十二部卷四終〕

- ①②(イ)(ロ) 卷數表示なし ③④(ロ) 卷數表示なし ⑤(ハ) 「無心間玩路旁景 兩步并作一步行」二句あり ⑥(ハ) 「欲知如何去告狀 下卷之中再表明」二句あり ⑦(イ) 「老師傅 你囑咐我了我再囑咐你 徒兒言語要你聽 今日徒兒把京進 家中事情要你照應 清晨先擔兩擔水 吃了飯掃掃院子出牛棚 到了晚晌無了事 手拿梆去打更 周先生聞聽一咧嘴 徒兒說話死不通 我本是與你家教書 難道說與你家當僱工」一文あり (ロ) もほぼ同文あり (ハ) 「明公欲知下回事 等我休息再說明」二句あり ⑧(ハ) 「因此急急傳回家 稟與母親得知情」二句あり ⑨(ハ) 行換えせず、「母子二人把定計」に作るが、西江月詞の第一句なので六字であるべきところ ⑩(ハ) 「只爲不知進京路 是向老伯問一聲」二句あり ⑪(ハ) 「又只見前面來了 二十四個對子馬」 ⑫(イ) 「護國寺 爲甚麼給他上了繩」 ⑬(ハ) 二句なし ⑭(ハ) 「車夫將馬來控定 喇嘛小孩共留神」二句あり ⑮「你要快快來相救 再遲片刻送了命」二句あり ⑯(ハ) 「要知後來一切事 歇歇再來說分明」二句あり ⑰(イ) 「劉老爺聞聽這句話 連把二老師父叫一聲」二句あり (ロ) 「劉大人見說微微笑 二師父說話太欺人」に作る ⑱(イ) 十七句前に記す。「人人都說說書好 有許多的苦處在心里 又有了冤枉大狀子 你有把我真正死了 我在寺內把你問 想着法的把我朦 那時間你有冤枉狀 你說無有狀一封 十部卷一終 到春天風大比定嗓子啞」 ⑲(イ) 卷數表示なし ⑳(イ) 「你大哥穿紅上了殿 十部卷二終 實指望萬歲爺」 ㉑(イ) 卷數表示なし ㉒(ロ) 「下一回再說吏部劉大人」 ㉓(ハ) 「門生有禮了 說罷堵氣站定」 ㉔(ハ) 「上寫着的告狀人 名叫雙喜號連城 年紀才交十二春」三句あり ㉕(イ)(ロ) 「監斬可是賊國太門御劊子手提刀兩邊佔 何首相心內輾轉長歎氣」 ㉖(イ)(ロ) 「下回書 旋風案上表個清」

ただこの部卷分けは、完全ではない。(イ)(ロ)は概ね一部四卷に分けてはいるが、(ロ)は「三部卷一終」以前は表示せず、(イ)は首部、二部の卷四終を表示するが、その他の卷を表示しない。

また、西江月詞を詠じて新しい回が始まることはほぼ確かであるが、「卷」は必ずしも「回」を意味しない。

(イ)(ロ)は一部四巻とするが、「部」の途中で休止を明示した箇所は、十部巻三終(ロ)、十二部巻二終のみである。

また(イ)(ロ)は十二部巻一終で第一冊(第一巻)を終わり、十二部巻二から第二冊(第二巻)に入っているが、第一冊では(イ)は(ロ)と異文が多く、むしろ(ハ)に近い字句も少なくないが、第二冊以降は(第三冊、第四冊も含めて)、(イ)(ロ)に異文は少ない。

以上のことを総合すると、(イ)(ロ)の部巻表記は後からなされたものであり、(ハ)はそれ以前の原形を留めたテキストと考えられる。あるいは(ハ)は(イ)(ロ)の部巻表記を削除したものかも知れない。また、(イ)は第一冊のみ(ハ)に近いテキストであることも分かる。

二

第二部「旋風告状黄愛玉上墳」では、上述のように、(イ)(ロ)は部巻表記をしていないが、途中必ず「四句閑言」を詠じ、回の交替を明示しながら語り続けている。また回の冒頭では、前回の字句を再記しており、語り物のテキストとしての體裁を整えている。

第一部と同じく、(ハ)より(イ)(ロ)の方が回数設定が多い。具体的に示すと、次のとおりである。

「世上生意甚多……」西江月罷後……下回旋風來喊冤

詩曰「室明室暗雖相異……」……抬起頭來用眼觀 說到這裡住一住 下回再把旋風盤

詩曰「湛湛青天不可欺……」①……唵啾一聲上北顛

詩曰「只顧經營國家事……」②……下回書裡說根源

「世上有一女子……」言的是……不用再三吩咐咱 說到這裡住一住 但等下回開正篇

詩曰「信是君仁莫不仁……」③……下回再細接前因

詩曰「愛國忠良劉大人……」……邁開大步前顛 說到此處住一住 下一回裡開正言

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂(阿部)

詩曰「大人轎內打算盤……」④……下回書裡說個全

「大人本是清官……」西江月罷……今有小事未辦完 說到這裡住一住 歇歇喘喘吃袋煙

詩曰「鄉地心內膽着驚……」⑤……下回書裡另有言

詩曰「鄉民轎前來請安……」……左邊驗了右邊驗 說到這裡住一住 歇歇喘喘吃袋煙

「說起武舉張培元……」……下回書裡我再言

「悶坐閑下無事……」西江月罷……下一回裡說根源

詩曰「貧莫憂愁富莫誇……」……正北來了個好汗尖 要知此人是那個 下回書裡說根源

詩曰「三月殘花落更開……」⑥……下一回裡說根源

詩曰「寒雨連江夜入吳……」……媽媽讓到東裡間 說到此處住一住 歇歇喘喘吃袋煙

「大人打扮老道……」西江月罷……⑦尊聲母親聽兒言 我父留下兩項地 俱都教我全化完 說到此處住一住

但等下回開正篇

詩曰「獨上江樓思悄然……」⑧……下回書裡再告誦

詩曰「劉老大人來私行……」……二人這才飲劉伶 說到這裡住一住 下一回裡再找零

詩曰「劉清素日有大名……」⑨……下一回裡說分明

「說起臊子劉清……」西江月罷……唵拉一聲開門庭 原是蒲賢回家轉 這個亂子可不輕 張興要把蒲賢害 下

一回裡再告誦

詩曰「一官一民走進門……」⑩……慌忙脫下大青領 準備要把劉青打 下一回裡再告誦

詩曰「劉青本是無頭家……」⑪……四個菜碗甚鮮明 要知二人吃的是甚麼飯 下回書裡說個清

詩曰「此日長昏飲……」⑫……下一回裡再告誦

「明日要審愛玉……」西江月罷……你把瞎英來借銅 要知武舉怎麼樣 下一回裡再告誦

詩曰「欲知其中真情事……」⑬……苦了愛玉合張興 要知劉青怎麼樣 下一回裡說個清

詩曰「循環應報不非輕……」⑭……下一回裡再告誦 歇歇喘喘再告誦

詩曰「花開紅樹亂鶯啼……」歇歇喘喘再告誦
「蛤蟆前來攔路……」西江月罷……下回書裡說個清

詩曰「山外青山樓外樓……」跟着蛤蟆上正東 正東一去不大緊 這個亂子又不輕 要知大人吉凶事

下一回裡再告誦

詩曰「畢竟西湖六月中……」⑮……下一回裡再告誦

詩曰「草怕嚴霜霜怕日……」……下一回裡再告誦

「世事真乃湊巧……」西江月罷……下一回裡再告誦

詩曰「四月清和雨乍晴……」……大人裡面也心驚 要知王忠打了不打了 下回書裡再告明

詩曰「三月正當三十日……」⑯……陪着道爺飲劉伶 要知三人說的話 下一回裡再找零

詩曰「連理枝頭花正開……」⑰……下一回裡說個清

「世間多少奇事……」西江月罷……西方墜落太陽星 要知大人怎麼樣 下一回裡再告明

詩曰「白日依山盡……」⑱……下回書裡說個清

詩曰「家有黃金用斗量……」……下一回裡再找零

詩曰「信是君仁莫不仁……」……下回裡說分明

「燒酒賽過靈丹……」西江月罷……下回書裡開正封

詩曰「有梅無雪不精神……」……連把姐姐叫幾聲 要知此話怎麼講 下回書裡說分明

詩曰「玉屏小姐女嬋娟……」⑲……下一回裡再告明

詩曰「女子荒野跪流平……」……下回書裡說分明

「財帛本是眞寶……」西江月罷……下回書內說分明

詩曰「家將如同虎一般……」……下一回裡再找零 要知大人怎麼樣 下一回裡再告明

詩曰「瀟湘何事等間回……」……劉大人一旁看得清 要知大人怎麼樣 下一回裡再告明

詩曰「雲淡風輕近午天……」⑳……下一回裡說再明

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂(阿部)

「喜の三春美景……」西江月罷……²¹

詩曰「草鋪橫野六七里……」²²……下回書裡再找零

詩曰「春宵一刻值千金……」……下回書裡再找零

詩曰「詩家清景在新春……」……下一回裡再找零

「買賣將本求利……」西江月罷「古段無し」……對俺從頭說分明 要知二人怎麼樣 下一回裡再找零

「四句無し」二女子閑言道……下回書裡再告誦

詩曰「知人知面不知心……」……下回書裡再告誦

「別的行道莫講……」西江月罷「古段無し」……要知佳人怎麼樣 下一回裡再告誦

「四句詩無し」²³ 上回說的不聽勸……再等下回說分明

「四句詩無し」大人說無妨事……下回書裡接着聽

「世上小秃甚好……」西江月罷……此庄叫着什麼名 要知鄉民怎麼答 下一回裡再告誦

「四句詩無し」鄉保可在此間住……說書喊的類子痛

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒ (ハ)になし

⑦(イ)(ロ)には、西江月詞とともに、「閻王爺比做一坐樓 小鬼比做拉樓的牛 人生世上比做種 早晚種

到地裡頭 不論朝王與駙馬 那管公子合王侯 眼看着前浪催後浪 時興的小夥頂老頭」の古段あり²¹(イ)

(ロ)では、古段は、「南郷有個王家庄……踏死八十小和尚」の後に、「山頂以上解了解手 大糞拉的頂着山

當陽 庄家人家拾大糞 先上穀子後上高粱 不言庄稼長的好 二姑娘他又驚的慌 拉開褲子撒了番屎 淹了多

少的州縣全村莊 携男抱女的都逃難 都說是開了揚子江 湖州 百咧的大牌段」一文あり

⑳(ハ)には、詩曰「草鋪橫野六七里……」あり

これを見ると、(イ)(ロ)は餘りにも整然と構成されており、第一部とはまた違った形式で(ハ)の段階のテキストを整理したのか、あるいは(ハ)は、逆に(イ)(ロ)の回数を減少させたものと考えられる。

なお、(イ)(ロ)では末尾の西江月詞「買賣將本求利……」以下の部分で、古段を置き忘れたり、詩を詠じ忘

れたりしており、不整合の様相を呈している。あるいはこの部分まで編集の手が及ばなかったものか。

三

第三部「奉旨山東拿國泰」の説唱形式は、唱を主とする第一部、第二部と違って、説が唱に先行し、語り手は登場人物に「我」という一人稱でストーリーを敘述させていた。

具体的に第三部の構成を分析してみると、以下のようになろう。

「才子佳人讀書文……」幾句閑談敘過 内有新書一部聽在下道來 ①

詩曰「領旨山東安大邦……」話說中堂大學士和珅……見機而作 方爲正理

正是「渾濁不分連共裡 水清方見兩般魚 中堂之事且不表 再把國太明一明」

四路總兵伺候國太 詩曰「冠頂亮紅孔雀翎 腰懸寶刀稱英雄 鎮壓大清昇世界 一統乾坤享太平」② 話

說四路總兵是誰……登州府總兵韓太昌

國太升堂 詩曰「根底貴重不按規……」話說吾國太天子命我……免得本御要生噴

詩曰「愛國忠良劉大人……」詩句敘過 内有古書一段相隨 明公請坐 聽在下漫漫的道來

「閑談少敘書歸正 接着上回找找零 國泰劉公進城去 不知劉公吉合凶」話說國泰對劉公說……

正是「忠臣一時遭禍變 天官自有吉星臨 報信之時且不表 囹圄大人明一明」話說劉中堂奉旨來拿國泰……

正是「武子兵法鎮乾坤 幸虧腹內隱妙文 執掌十八省的銜 竟把大清社稷安 領旨山東拿國太 回朝繳旨

見龍顏」話說吾大學士和珅領旨山東拿國泰……須早起到那裡

「世上小禿甚好……」詩曰「只願經營國家事 寧知苦此一鄉紳 大人真乃擎天柱 一統河山萬萬春」西江月罷

後有古段相隨 明公不嫌耳俗 聽在下漫漫交代 「執掌大權生死簿 山東規矩任我行」③ 話說本御國太

官居山東巡撫……

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作の編纂（阿部）

「龍離滄海風雲少……」(6句) 話說本御大國舅桂太 官居山東巡撫……「……原來是四路總兵接欽差

離城不過半里路 正好遠遠的看分明 劉公性命怎麼樣 我看國太怎麼安排 催馬而上吐言語」④ 話

說你四人頂冠掛珠拋跪在路 □係何官職……

「世上生意甚多……」西江月罷……引出古書相隨 明公請聽 在下慢慢道來 詩曰「湛湛青天不可欺……」

(6句) (白) 上回說的和公下了馬……吾早也懷恨與你

「劊子手上提鋼刀……」……

正是「山東拿了惡國泰 百姓方能得太平」……

這正是「盛世豈容奸佞在 必賴忠良建大功」話說放告三天 接了七十多張冤枉狀 劉中堂中軍劉安 和中

堂中軍劉錫、大人令他二人吩咐四路總兵與帶刀大軍等明日五鼓早堂伺候他 二人吩咐已畢 回稟大人準

備明日坐堂

「大堂威嚴喊聲高……」⑤ 話說東昌府總兵袁大化 兗州府總兵馬飛天 登州府總兵韓太昌 青州府總兵

秦開山 伺候二位大人升堂

「欽差奉旨下山東……」⑥ 話說二位大人升堂落坐……然後再問他的詞

「天怕浮雲地怕荒……」幾句閑談敘過 內有殘書半篇 明公不嫌俗耳 且聽在下的道來……

正是「中堂治罪無私弊……」(4句)

「乍來見面投脾氣……」(4句)

「財帛本是真實……」 詩曰「室暗室明兩奚疑……」⑦ 幾句閑言敘過 再接上回正文 聽在下漫漫的道來

這正是「大器晚成古來話 英雄總是出山東」……你接着拳腳來來來

「喜的三春美景……」 詩曰「雲淡風輕近午天……」西江月罷 內有殘書半卷 明公尊坐 聽我、慢慢道來⑧

一盞燈 笑哈哈……

詩曰「爲官須得作良臣……」……

「作官須要安邦國……」……你須前頭引路急奔牛家店 訪訪一箇牛飛天怎麼惡處 「作官多居在京裡……

有了許多大勾當」

「銀錢本是藏物……」「人見利而不見害……」西江月說過 內有古段相隨 明公尊坐 細聽在下的道來 ⑨
「佟家塞上無道理……」……除妖收鬼便了

詩曰「明知損德害人事」⑩……

「滿心要把高人請……」……無奈作了賊的老婆

詩曰「冤魂被屈魂不散……」……

這正是「忠心敢比龍圖閣……」(4句)……

「今時怎比往時間……」(9句)幾句閑言敘過 還有殘書半段相隨 明公不知尊坐 請聽在下的慢慢道來⑪：

詩曰「常思交媾愛風流……」……

正是「自古能人休誇口 能人背後有能人」 不言李黃二人之藝 再說范鼎·姜寬

正是「大胆攀龍尖上角……」(4句)⑫

詩曰「貧莫憂愁富莫誇」 閑言敘過 後有殘書相隨 明公尊坐 聽在下慢慢道來 「得便我就急急走 他必追

趕隨後行 姜兄接引在半路 相要逃走萬不能 兩次誑到觀音寺 再想搶搶也不能 不提姜范二人話 再把飛

天明一明 能叫天下人服我 我再不服天下人」⑬ 話說老夫牛飛天前日請了一個老道退鬼……于是四人去平

牛家店 三個女子 一名繡花 一名腊花 一名桂花

詩曰「雖然女流稱英雄……」話說咱姐妹三人同侍一夫⑭……再說李竟·黃真·姜寬·范鼎四人

正是 詩曰「義氣高雲漢……」(4句)⑮ 四句提綱敘過 後有古段相隨 聽在下拙口啞舌慢慢道來⑯ 話說

咱四人……話說中堂劉老大人

正是「全憑赤膽安天下 一統江山保太平」……

正是「皇家王法無私弊 正代乾坤無惡人」「升堂作察院……」(4句)⑰

「二八佳人進花園……」幾句閑言說罷 引出古書一段 細聽在下慢慢的道來 話說秦太太⑱……

鼓詞〈劉公案全傳〉三部作的編纂(阿部)

正是「忠心耿耿扶大清……」(4句)

- ① (ハ)になし ② (ハ)「正是 渾濁不分連共裡……」から無し 傍線部「四路總兵伺候國太」「國太升堂」は回目らしいが、こころか無く、これも構成上の缺陷だと言える。(ハ)には「國太升堂」も無い ③ (ハ)「正是武子兵法鎮乾坤……」からを、「正是 武子兵法鎮乾坤 幸虧腹内隱妙文 領旨山東拿國太 回朝繳旨見龍顏 大人眞乃擎天柱 一統河山萬萬春 按下中堂且慢講 再把國泰明一明」とする ④ (ハ)「原來是 四路總兵接欽差……」を、「原來是四路總兵官 要知國太怎麼樣 下一回中細細詳」とする ⑤ ⑥ (ハ)、「這正是 盛世豈容奸佞在 必頼忠良建大功」以下を三回に分けず、よって⑤⑥の詩なし ⑦ (ハ)、「この詩なし」 ⑧ (ハ)「喜的三春美景……」から無し ⑨ (ハ)「訪訪一箇牛飛天怎麼惡處」から無し ⑩ (ハ)「人見利而不見害……」の詩を置く ⑪ (ハ)「還有殘書半段相隨」以下を、「再接正文」とする ⑫ (ハ)、「この詩無し」 ⑬ (ハ)「後有殘書相隨」以下無し ⑭ (ハ)「于是四人去平牛家店」以下を、「不知勝負如何 且聽下回細細說來 詩曰『人見利而不見害……』話說牛家店三個女子 一名繡花 一名腊花 一名桂花 姐妹三人同侍一夫」とする ⑮ (イ)詩曰「爲人莫要行惡霸……」の詩を置く ⑯ (ハ)「四句提綱敘過」以下を、「閑言敘過 再接上回」とする ⑰ (ハ)「升堂作察院……」(4句)無し ⑱ (ハ)「幾句閑言說罷」以下を、「幾句閑言敘過 再將秦寡之事 慢慢道來」とする。

〔部〕の冒頭には、詩の他、「才子佳人讀書文……」「天怕浮雲地怕荒……」「今時怎比往時間……」「二八佳人進花園……」の七言の閑談や、「世上小禿甚好……」「世上生意甚多……」「財帛本是眞寶……」「喜的三春美景……」「銀錢本是藏物……」という西江月詞も用いられていて、一應第一部、第二部と同じように編纂に工夫が加えられていると言えるが、決して整然と編纂されているとは言えない。

すなわち(イ)(ロ)では、「古書」を述べないにもかかわらず、なお「内有古書一段相隨 明公請坐 聽在下漫漫的道來」という常套句を残しており、(ハ)では、「閑言敘過 再接上回」と改めているところもあるが徹底していないし、西江月詞のすぐ後に詩を併用したり、「殘書」を述べ終わっているにもかかわらずその後でまた述べようとしたり、「閑談少敘書歸正 接着上回找找尋 國泰劉公進城去 不知劉公吉合凶」のように本來「説」の

七言を詩に流用したり、詩曰「愛國忠良劉大人……」のように第二部の詩を借用したりしていると、編纂の杜撰さがうかがえる。途中で、「三狼莊」「苗虎」「姜寬」という観客にとっては未知の固有名詞が何の説明もなく突如出現するのも、編者に作品を整理する餘裕がなかったためだと思われる。

結び

光緒本と民國本を比較すると、第一部においては、光緒本では部巻分け表示をしており、民國本にはそれが無い。第二部においては、光緒本では「部」の途中に詩を置いて細かく回数分けをしており、民國本では詩は一、二回しか置かない。第三部は、第一部、第二部と説唱形式が全く異なるが、やはり途中休止は民國本の方が少ない。民國本は整理が加えられる前の原形を留めたテキストか、あるいは逆に分回の繁雑さを嫌って一回の敘述を長くしたテキストと考えられる。ともあれこの三部作は、その編纂形態の相違から見て、異なる時期に異なる編者によって編纂されたと言えよう。

光緒年間に三部作が一篇にまとめられて以後、この作品は一人の語り手によって語られることになる。陝北説書の演員韓起祥（一九〇八）の〈白綾記〉（韓起祥曲藝選）中國曲藝出版社、一九九〇版收）は、明らかに〈劉公案全傳〉を用いて語った作品である。〈劉公案全傳〉は語り継がれた作品で、各部のまとまりに缺けるものの、第一部は、國舅に父を殺された左連城の復讐心を描き、第二部は劉の民情視察を描いて出色であり、そのためか人気を博してこのテキストが現在まで用いられて来たものと考えられる。

ついでながら、劉墉父子を主人公とする鼓詞に〈新刻滿漢闖〉四卷二十回があり（「車王府曲本選」中山大學出版社、一九九〇版收）、劉墉の父劉統勳（一六九九—一七七三）が三年飢饉が続く山東を偵察し、李氏兄弟から父金好善を殺された姉妹の訴えを聞き、劉墉が李氏兄弟の表兄で北京の閣老夜里紅を処刑することを述べる。その冒頭は、「西江月詞」（実は七言詩）に始まり、続いて「鼓段」を語る（「鼓段」があるのは一回、三回のみ）という点で〈劉公案全傳〉に似ている。よって〈劉公案〉には共通した語り口調があったのではないかと思われ、興味深

い。なお〈新刻満漢圖〉では、〈劉公案全伝傳〉のように内容が散漫ではない。

〔付記〕 本稿を草するに當って、テキストの所藏者である中國國家圖書館、北京師範大學圖書館、東京大學東洋文化研究所の協力を得た。謹んでここに謝意を表したい。